

# 自己改革取組宣言

これまでも、これからも、地域とともに  
JA津軽みらいは総合事業を展開します

農業者の所得増大、農業生産の拡大、地域の活性化に取り組みます。

このため、協同組合の原点に立ち、組合員の皆さんとの話し合いを深めます。

そして「総合事業だからこそ」の強みを活かし、地域にとってなくてはならない組織であり続けます。

協同組合とは、組合員の一人ひとりが力をあわせ、みんなの願いをかなえていく組織です。

JAは、農業者（正組合員）が組織する協同組合です。農業者の営農と生活を支えるため、様々な事業を総合的に展開しています。農業者の所得向上や地域農業の振興を目的に、農産物の販売や、信用事業（JAバンク）、共済事業（JA共済）などの様々な事業を、営農相談やくらしの相談活動を通じて、総合的に結びつけ、地域農業の振興や地域づくりに取り組んでいます。

農業者以外の方で、地域農業の発展や地域づくり、ニッポンの食を応援していただける方は、地域農業の応援団として准組合員として加入いただいております。

信用事業や共済事業などを含めた総合事業全体の収支のなかで実施しているからこそ、JAの経営基盤が安定し、営農指導員の配置や多額の農業施設投資が可能です。

いわば、農業者と地域農業の応援団で、JAの総合事業を通じて地域の農業とくらし、みんなの願いをかなえる取り組みを支えあっています。

当JAが行っている自己改革の主な取り組みについて次により紹介します。

平成31年 3月

JA津軽みらい

## 1. 「農業者への総合的な支援」

### ①常勤役員による毎戸訪問活動の実施

【訪問者 組合長、専務、販売担当常務、営農購買担当常務、  
信用専任常務、常勤監事】

【訪問時期 平成30年7月～1年間】

【訪問先 担い手農家（25名）、認定農業者（25名）】

【訪問内容 J Aや農業に対する意見交換】

②労働力不足の農業者を支援するため、担い手の育成や無料職業紹介事業による労働力支援、農作業の受委託、外国人技能実習生の受入れ等を図ります。

【担い手育成研修 年205回開催】

【無料職業紹介所 取扱件数  
求人43件、求職49件、マッチング22件】

【農作業受託件数 3,530件（25件増加）】

【外国人技能実習生受入人数 年7人】

## 2. 「農業者の所得増大への実践」

①りんごの国内の需給バランスを考慮しながら、輸出数量及び輸出国の拡大に取り組みます。

【29年産合計8か国3,434t】

【新規国 マレーシア20t・カンボジア8t】

【大幅増国 ベトナム107t（68t増）・タイ238t（219t増）】

②新たな需要開拓の実践と付加価値の増大のため「桃」の作付け拡大に取り組みます。

【「津軽の桃」として商標登録】

【栽培面積 15ha】

【津軽の桃を使った関連商品 25品種：販売額858万円】

③トマト苗やハウスに対する助成をし、トマト販売額拡大に取り組みます。

【ミニトマト作付面積 14ha（前年比107%）

150人（前年21人増）】

【ミニトマト生産量 828t（前年対比101%）】

【ミニトマト販売額/ 6億6,244万円（前年対比115%）】

④米生産者の安定した所得向上に取り組めます。

【青天の霹靂に切り替えたことにより 10 a 当り 9,000 円の所得増】

【播種前契約や複数年契約により 1 俵 360 円の価格増】

⑤生産資材のコスト抑制に取り組めます。

【従来品より 5%~20%の価格を下げたみらいブランド肥料】

【労力軽減タイプ 1 袋 15 kg 肥料の取扱】

【全農担い手直送大型規格品(水稲除草剤)の取扱】

### 3. 「農業生産拡大の推進」

①農業振興のための助成事業を展開します。(30 年度見込額)

りんご	15,088 千円	果樹	378 千円
トマト	3,264 千円	にんにく	4,424 千円
アスパラガス	413 千円	花卉	386 千円
高冷地野菜	4,648 千円	ハウス	10,983 千円
水稲	7,604 千円	畜産	621 千円
他	934 千円	合計	48,743 千円】

### 4. 「安全・安心な農畜産物の安定生産」

①土壌診断による土づくり、残留農薬検査の厳格化、生産履歴記帳の徹底、GAP（生産工程管理）への取組みを通じ、これからも安全・安心な農畜産物を安定的に生産してまいります。

【土壌診断件数 125 件】

【残留農薬検査件数 145 件】

【生産履歴記帳回収件数 7,361 件】

【グローバルGAP講習会回数 4 回 説明会回数 2 回】

### 5. ガバナンスの強化

①改正農業協同組合法第 30 条第 12 項に基づき、理事体制を見直しました。

【理事については、認定農業者、実践的能力者、認定農業者に準ずる者とした（平成 30 年 9 月から）】

## 6. 農業を通じた地域社会への貢献

① J Aは総合事業を通じて、地域の農業とくらしを守り、地域みんなの願いをかなえる取り組みを行うという使命があります。

そのため、組合員組織による仲間づくりや食農教育活動、市民農園や地域の環境美化活動を通じて地域社会へ貢献します。

【食農教育活動（青果部関連） 15件

内容 出前授業 りんご贈呈式 】

【食農教育活動（営農部関連） 延べ694件 16回

内容 バケツ稲づくり 豆腐作り体験 農作業体験 】

【市民農園 6件

内容 ファミリー農場 】

【環境美化活動 延べ47件 4回

内容 寄せ植え 緑のカーテン 花壇の草取り 】

